

# 平成30年度 第1回熊本市立図書館協議会

- 議事録 -

日時 平成30年7月25日(水)

午前10時00分～

会場 熊本市立図書館 2階 集会室

《出席者》

熊本市立図書館協議会委員

吉村 純一 委員（会長）

藤井 美保 委員（副会長）

加藤 貴司 委員

原 輝智 委員

下城 明美 委員

西本 彰文 委員

鎌田 文代 委員

以上 7人

《欠席者》

なし

傍聴者 1人

《出席者》

熊本市側

坂本 熊本市立図書館長

橋本 植木図書館長

黒木 とみあい図書館長

松田 城南図書館長

河瀬 プラザ図書館長

渡部 生涯学習課長

（事務局）

・川口館長補佐（熊本市立図書館）

・清田主幹兼主査（ " ）

・井手主幹兼主査（ " ）

・成松主幹兼主査（ " ）

・福田主幹兼主査（ " ）

・松里参事（ " ）

以上 12人

## 平成 30 年度 第 1 回熊本市立図書館協議会 議事録

- 1 開会
- 2 熊本市立図書館長挨拶
- 3 委員・職員紹介
- 4 会長・副会長の選任
- 5 議事
  - 議題 1 「図書サービスのあり方」に基づく取組状況
  - 議題 2 図書館の利用状況等について
  - 議題 3 今後の取り組みについて
- 6 その他
- 7 閉会

挨拶・委員紹介・会長選任は省略

【議事】

議題1 「図書サービスのあり方」に基づく取組状況について

(事務局より説明)

委員 今回「図書サービスのあり方」を見せてもらったが、組織的にサービス向上を進められているのがわかって、良いと感じた。

ところで、次期図書館システムを学校システムと一緒に導入ということだが、学校での貸出等についても図書館で把握すると理解してよろしいか

事務局 学校で借りた本は、学校のシステムで管理されているので、図書館では把握しない。

委員 国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に加入したねらいは。

事務局 「レファレンス協同データベース」では、参加館が過去に回答したレファレンスを参照できるので、より質の高い回答が可能になる。また、他館の回答事例から、調べ方や資料の参考になり、司書の資質向上になると考えた。

委員 月1回、おはなしボランティアで勉強会を行っているが、以前はボランティア総会が開催されていた。図書館側とボランティアの代表者で話し合う機会を設けていただき、より良いサービスに繋げたい。

もう1点。定期的に勉強会しているので、「おはなしボランティア」として、小中学校に派遣していただき、読み聞かせや語りをするようなシステムを作っていたきたい。

事務局 ボランティア総会を把握していなかったが、今後は開催し、ご意見を伺いたい。

委員 これは重要な話。民間活力の導入の本質は、企業を入れるのではなく、ボランティアの皆さんが公共サービスにどう役割をしていくかということ。是非、総会の実現して欲しいし、必要に応じて開催していただきたい。

委員 図書館から配布している「図書館だより」にボランティア案内があると、ボランティアが必要な学校に情報が届けられると思う。

委員 資料P2の「他の図書館や施設・機関との連携強化」に、尚絅大学と連携とあるが、なぜ尚絅大学か。1校だけの連携なのか、今後、その他の大学と協定していくのか、教えていただきたい。

事務局 平成29年度に熊本市と尚絅大学が、子育て支援等について包括的な連携協定を締結する動きがあった。そこで、読み聞かせの重要性を伝える講演会を、幼児教育

科や司書課程がありノウハウを持つ尚絅大学にご協力いただきたいと思い、協定を締結した。

委員 大学はそれぞれ特色がある。尚絅大学は子育て関係に強みがあるし、学園大は経済、商学系に強い。熊大も様々な特色があるので、皆が一緒になると相当な力になると思うし、より良い住民サービスに繋がっていくと思う。

委員 子ども読書活動推進について、小学生は本をよく読むが、中学生になったらあまり本を読まないとのことだが、調査方法を確認したい。ある時点での小中学生の調査なのか、元々不読率の高い世代がそのまま中学生に移行しているのか。

事務局 毎年、熊本市内の市立小中学校全学年を対象に、1クラス抽出して調査している。

委員 中学生の不読率は、どうしてこんなに大きく変わるのか。

委員 小学校の場合は、授業の一環として図書室に行って本を読んでいる学校が多い。だからかなりの小学生は本に親しんでいる。中学校になると、教科が増えるし、受験を控えるので、授業時間を削って図書室に行くのは難しい状況。この差は、そういう学校の指導と考えられる。

委員 図書館が時間延長など色々な施策をして、利用しやすくなっていることがよくわかった。アンケート調査の「どちらでもない」「不満」の理由がわかれば、更なるサービス改善ができると思うが、理由は把握しているか。

事務局 本館については、駐車場に関するもの等、施設や設備に関するものが多く、すぐに解消することが難しい。

## 議題2 図書館の利用状況等について

(事務局より説明)

委員 プラザ図書館と城南図書館の開館が、公民館図書室の利用減少に影響したのか。

事務局 若干影響していると思うが、一時は落ち込んだ市立図書館は、利用が回復した。公民館図書室はずっと減少している状況。城南図書館は、南区の公民館図書室に影響があったかもしれないが、東区や北区方面等、離れた地域の図書室は影響ないと考えている。住民のライフスタイルの変化や、提供しているサービスのあり方が課題ではないかと考える。

委員 公民館利用者の属性は、図書館と違うか。

事務局 公民館利用者の属性について、手元にデータがないが、地域住民の利用が多いようだ。例えば、児童館併設の公民館は、子どもや親子連れの利用が多い。

生涯学習課 公民館は、図書室・児童室や総合出張所を併設している施設があり、減少の

要因を確定するのは難しい。ただ、平成29年4月からサービスコーナー化が進められ、機能が変化し、来館者に変化があったようだ。来館者の減少の要因は、複雑で一様にこれ、というのは難しいと思う。

委員 人口減少も要因の一つだと思う。社会全体として子どもが減っている。

委員 日吉東小や力合西小など新設校の校区は、むしろ子どもの人口は増えていると感じる。逆に東町小や東区の学校は空き教室が多く、子どもが減っていると感じる。南区は子どもが増加していると思うが、南区の公民館図書室は利用が減っている。つまり、人口増減とは関係ないのでは。

要因の一つは、公民館図書室に新刊が入っているか。魅力がなくなっているのではないか。

事務局 確かに、公民館図書室の本は、魅力的な本がないという意見がある。行きつけの公民館図書室の本は、既に読んでしまい、目新しい本がもっと欲しいと思っている利用者がいるだろうと感じている。

新しい本を沢山置けば解決するが、予算等の関係もあり新刊を大量に揃えことはできない。そこで、まだ構想だが、公民館間で、蔵書を回す工夫が出来ないかと考えている。

委員 本館やプラザの本を含めて回すのか

事務局 予約本については、現在も所蔵する館から受取希望の館へ搬送している。それだけでなく、まとまった量を定期的に回すことで、いつもと違う本が並び、新たに本を読んでいただけるのではないか。

委員 ピンポイントで欲しい本がある人は、検索して予約・貸出できるが、来館して本を選ぶ人は、棚を見て品揃えが良くなっていると思わせる工夫が必要。

具体的にはどうやって本を回すのか。

事務局 毎日搬送しているものに、数百冊をパックして追加するか、公民館図書室の司書が地域の利用者に合わせて他館で選書して持ち帰るか、やり方は色々考えられる。

委員 資料13Pの公民館の順番に違和感があったが、14Pを見て、減少率の高い順かと納得した。公立公民館全体で利用が減少している原因を考えてみたが、なかなかわからない。

減少率の上位6館は、ほぼ南区。これは、とみあい図書館と城南図書館の影響が出ていると思う。しかし、公立公民館全体的に減っている。原因を色々検討して、住民の一番近くにある公立公民館図書室の利用増を図っていただきたい。

委員 公民館でばらつきがあるようだが、図書館として統一の施策をするのか、それぞれ館の事情に合わせた施策を考えるのか

事務局 要因によって対策は変わってくると思うが、開館時間等は統一するものだし、地域性に基づく蔵書構成等はそれぞれの特性に応じて魅力ある図書室をつくるものと思う。

利用者は車で来館する人が多く、複数施設を利用する。特色ある図書室をつくるのが人を魅きつけることになると考えている。

委員 資料9Pの男性の年代別利用率は興味深い。利用が少ない20代～50代の勤労世代の男性の需要を掘り起こす具体案はあるか。

事務局 今後検討していきたいと考えている。

### 議題3 今後の取組について

(事務局より説明)

委員 電子書籍に期待している。学校は同じ時期に同じ教材を使うため、教材となる本の奪い合いになる。調整もなかなか難しい。もし、電子書籍を利用することで、同時多数利用が出来るならば、涙が出るほど有り難い。大変期待している。

もう一つ、学校との連携だが、是非今後も連携していただきたい。今、学校図書館支援センターに支援してもらっている状況。熊本市の小中学校の校長会で、それぞれの教科についてはしっかりと検討しているが、学校図書館に関しては団体さえない状況。これから活性化していくので、図書館と学校の連携を密にしていくのは、大切だと思う。

委員 電子書籍は、デバイスが必要とのことだが、iOS端末か、Android端末か等、想定しているか。来年度から学校にもiOS端末が入るので、iOS端末が利用できれば、当然子ども達も利用できると思う。

事務局 両方使えることを想定している。

委員 一般向けの「市政情報」や「観光情報」はすぐにでも開始できるのでは。お金がかかる話ではないので、電子書籍はこういうものだ、と見せると、電子書籍を知らない方には効果があると思う。

委員 出来るものから始めると、浸透しやすいではないかというご意見だ。

小学生のiOS端末配備はどうなる予定か

委員 3ヵ年計画で全校配備。本年度は小中あわせて24校配備される。予算がかかるが、教育長が決断してくださった。

気がかりなのが、これを使いこなす教師がどの程度いるか。教師も使えるようになっていかないといけない。

委員 資料15Pの電子書籍の効果に、図書館側のメリットとして『省スペース化、省

力化』とあった。確かに図書館の直接的なメリットだが、空いたスペースや余った時間や労力を他の新しいサービスに振り分けるような方向性を探って欲しい。電子化で単にコスト削減や人員削減ではなくて、図書貸出以外にも目を向けて欲しい。

委員 在架予約制度はいつからサービス開始する予定か

事務局 来年の10月開始を目指して準備している。

#### 議題4 その他

委員 本館は、図書が多く書庫に所蔵している本が多いので、書庫を開放してもらえないか。昨年、目録を作ってもらったが、実際見て、手に取って選びたい。

今、自動貸出機があまり利用されていないので、利用を促せばカウンターの手間も減る。是非書庫の開放を検討していただきたい。

事務局 確かに閉架書庫にある本が多い。手に取って選びたいという気持ちも理解できるが、書庫は非常に通路が狭い、暗い等、一般の方が入る施設になっていないため問題がある。また、貸出出来る本、出来ない本があり、管理上の問題もあるため、現状では、一般の方を自由に行き来させることは難しい。

委員 本年度から教育委員会でも調べ学習に力を入れており、市内全体で調べ学習をしていく。調べ学習には本が必要。でも、学校にある本は非常に古い。調べ学習には新しい本が必要ということを知って欲しい。

国から学校図書館に示された予算が全部で200数十億あると思うが、本校の割当は補正もあわせて15万円/年。熊本市内の小中学校あわせて図書購入費が、だいたい2000~3000万円しかない。残りはどこに行ったのか。何億かあるはず。様々な経費が必要だが、子ども達に教えるには新しい本は必要。ということで、図書購入費を増やしていただくよう、是非、色々な場面でお口添えをいただきたい。

終了